東京医科大学図書館における新入生オリエンテーションの再設計

野崎 由紀*

東京医科大学図書館

I. はじめに

医学図書館における図書館利用教育は、医学情報のデータベース化や調査手段の多様化、また医学研究や臨床における生涯教育など、図書館を取り巻く状況の変化によってその内容を検討し、状況に合わせた変化が必要である。

東京医科大学図書館（以下、当館）では、学内情報環境の整備や医学生向けカリキュラムの変化に合わせ、2004年度の図書館新入生オリエンテーションで過去に実施されたオリエンテーションを見直し、再設計を行った。

なお、筆者は普段より臨床医や病院職員、臨床実習のある高学年の利用する西新宿キャンパス（本館）に勤務しているが、2002年から2004年まで私立大学図書館協会東地区部会研究部所属情報リテラシー教育研究分科会に参加した経験もあり、新入生オリエンテーションの見直しを実施することになったことを付け加えておきたい。

II. 背景

これまで当館で行ってきた新入生オリエンテーションは、医学の世界へ足を踏み入れたばかりの新入生に対し、医学の世界と図書館のかかわりを主任司書が簡単に講義するというものであった。

これはこれから生涯にわたって学習、研究の必要な専門職としての意識を持ってもらいたいとの意図で行われていた。

例えば、医学の世界では臨床研究と共にその成果を論文にまとめ発表する必要性があること、過去の研究成果のうえに現在の医学の進歩があることなどを中心に話をしていった。その際、書庫にある資料を利用し、当時の図書の主題を見ることによって紹介したり、単行書や雑誌、または一次資料と二次資料の違いについての説明をしていた。

つまり、新入生が利用したことのある公共図書館や学校図書館とは利用の目的が異なる、しかし生涯かかわっていくことの多い図書館＝医学図書館を分かりやすく紹介し、当館が「研究や授業の手助けをする親しみやすい図書館」であることを知ってもらおうという観点から「医学図書館」の説明を重点的に行っていた。

しかし、学内の他部署のオリエンテーションとも共同であるために実施時間や場所の制約があった。

さらに当学のキャンパスが、新入生が主な時間を過ごす大学キャンパスの他、主に高学年の授業と臨床実習を行う西新宿キャンパス（東京医大病院内）、臨床実習を行う八王子医療センターと霞ヶ浦病院の4つに分かれている。その4キャンパスにそれぞれ西新宿キャンパス図書館（本館）、大学キャンパス図書館（分館）、八王子分館、霞ヶ浦分館図書館と4つの図書館がある。そのため、各図書館についての細かな案内が行いにくい状況にあることなど、きめ細かい新入生オリエンテーションを行うことが難しかった。

また、当学では情報環境が整っていくと共に2003年度からカリキュラムの変更があり、低学年次から「問題解決を目的とした学習－Problem Based Learning（以下、PBL）」方法プログラムが導入されたため、授業開始後すぐに役立つ、情報ツールの使い方をはじめとする図書館の説明が重要となった。

その他、筆者が日常のカウンター業務で利用者に接していると、学生の中にはコンピュータでの文書作成やインターネットでの検索、メールなどの利用能力には長けているが、検索結果など入手した情報の吟味や著作権などのマナーに関する点などにおいてはほとんど無関心である者が少なくないことが気になった。

そこで、臨床の場に出る前から少しでも図書館利用法を含めた情報リテラシーを身につけてもらいたいとの視点から、今回、1年生向けオリエンテーションを検討することとなった。

*Yuki NOZAKI：〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-7-1.
y-sato@tokyo-med.ac.jp

（2005年2月19日 受理）

Ⅲ. 実践と結果

1. オリエンテーションの再設計

オリエンテーションを再設計するにあたり、オリエンテーションプログラムを構成する項目を再確認する意味で、2002年より筆者の参加していた私立大学図書館協会東地区部会研究部所属情報リテラシー教育研究分科会(以下リテラシー分科会)で作成されたオリエンテーション伝達項目チェックシート(図1)を参考にした。

伝達項目チェックシートは『FDハンドブック』¹⁾『図書館利用教育ガイドライン：大学図書館版』²⁾を参考に、リテラシー分科会会員校の日常業務経験から新入生オリエンテーションで実施している内容を伝達項目別に整理したものである。

これをさらに「必須事項(新入生オリエンテーションにおいて必ず案内すべき項目)」、「重要事項(新入生オリエンテーションにおいて案内したほうがよい項目)」、「伝えたい事項(新入生オリエンテーションにおいて時間など条件が許せば案内したほうがよい項目)」の重要度別の3段階に分け、再構成した。

今回はチェックシートの各項目を当館のオリエンテーションの状況と照らし合わせ、当館に必要なと思われる項目を再抽出し、オリエンテーション設計の検討課題とした。(図2-①, ②)

また、総合大学の図書館のオリエンテーションには重要な項目でも、医科系の大学図書館には伝える項目の優先度が低いもの、そもそも各大学の方針や状況により、異なった条件にかかわる項目に関しては評価対象からはずしたり、故意に低い評価を与えた。

例えば、評価対象からはずしたものとしては「特別な入館システムがない」、「視聴覚室やコンピュータ室などが図書館内にない」など当館の施設上の特色に基づいた項目や、行事や貴重資料などの展示の項目に関するなどである。しかし、重要項目を減らした分「当館でできること」を明確に打ち出し、各種サービスの紹介を重点的に行うなどした。

2. オリエンテーションにおける重点項目の検出

各項目を盛り込める無理のないプログラムを、低学年と接する機会の多い大学キャンパス図書館(分館)のカウンター担当職員らと相談の上作成した。

話し合いの中で、プログラムは伝達項目で検討した項目のほか、以下の点を考慮して作成することにした。

1) 図書館で何ができるか

単なる自習室やレポート作成の場、また出力センターではないことをPRしたい。また、利用できる資料が単行書だけではないことや資料収集の規則性なども触れる。例えばカウンター業務で学生の「雑誌を借りることはできますか」や「文献について調べるならまず図書館へ行きなさいと言われましたが、どうすればいいですか」などといった質問を受けることが少なくないことから、やはり低学年から図書館の利用についてPRが必要だと感じた。

2) 図書館のあるところ

高学年になり臨床実習に行くまで本学の各施設・病院に図書館があることを知らない学生が多いため、早くから各キャンパスにある図書館を認識してもらいたい。これは主に西新宿キャンパスにある図書館本館で高学年と病院職員を対象にサービスを行っている筆者が感じた点である。特に低学年の利用者の中には大学以外の施設内にある図書館を利用してはいけないと思い込んでいる人もいる。この点に関しては、当館のPR不足も否めないため、低学年から図書館を利用してもらうためにも、おおいにPRしたいところである。

東京医科大学図書館新入生ガイダンスの伝達項目チェック(2003)
日本図書館協会図書館利用教育委員会編『図書館利用教育ガイドライン：大学図書館版』より

詳しく解説・説明をしている	A
簡単に触れている	B
全く触れていない	C

※内容の各順序は備考欄に数字でご記入ください。
※各項目の内容を伝えているかどうかご記入ください。

1. 図書館の印象づけについて	チェック	備考欄(映像・資料有無など)
1. 図書館は生活・学習・研究上の基本的な資料・情報の収集・蓄積・提供機関であること		
2. 図書館は資料・情報の受信・発信・交流の拠点であること		
3. 図書館は種々のメディアを提供する機関であること		
4. 図書館は物理的な空間というより世界に開かれた情報の窓であること		
5. 図書館は気軽・便利・快適で自由な休息と交流の場であること		
6. 図書館は個人の知る権利を保障する社会的機関であること		
7. 図書館は生涯学習を支援する開かれたサービス機関であること		
8. 情報活用技術の重要性		
9. 図書館の種類と特徴		
10. 図書館とそのサービスポイントの所在地について		
10.1 本館の位置・所在地		
10.2 分館(他校舎)の位置・所在地		

図1. オリエンテーション伝達項目チェックシート(抜粋)
—情報リテラシー教育研究分科会作成

新入生オリエンテーションにおいて伝えるべき伝達項目（東京医科大学図書館）																																											
は会員校よりも必要度が高いと思われた項目																																											
必須事項	重要事項																																										
<table><tr><th>項 目 名</th></tr><tr><td>Ⅰ. 図書館の印象づけについて</td></tr><tr><td>1. 図書館は生活・学習・研究上の基本的な資料・情報の収集・蓄積・提供機関であること</td></tr><tr><td>3. 図書館は種々のメディアを提供する期間であること</td></tr><tr><td>10. 図書館とそのサービスポイントの所在地について</td></tr><tr><td>10. 1本館の位置・所在地</td></tr><tr><td>10. 2分館（他校舎）の位置・所在地</td></tr><tr><td>Ⅱ. 図書館サービスの案内について</td></tr><tr><td>1. 自館の特徴</td></tr><tr><td>3. 検索ツールの配置と利用法（OPAC・CD-ROM・データベース検索の場所と簡単な案内）</td></tr><tr><td>4. 参考図書・ツールの存在と有用性</td></tr><tr><td>4. 1 2ネットワーク情報源（WEB上の情報）</td></tr><tr><td>4. 1 3電子ジャーナル</td></tr><tr><td>5. 利用規定</td></tr><tr><td>5. 1入館資格<卒業後も利用可能であること></td></tr><tr><td>6. サービスの種類（存在をアピール）</td></tr><tr><td>6. 1貸出</td></tr><tr><td>6. 2返却</td></tr><tr><td>6. 3予約</td></tr><tr><td>6. 5相互貸借</td></tr><tr><td>6. 6学外文献複写</td></tr><tr><td>6. 7情報検索</td></tr><tr><td>6. 8レファレンスサービス</td></tr><tr><td>6. 9複写（コピー）サービス</td></tr><tr><td>10. 利用マナー（私語・携帯電話・飲食等の注意）</td></tr><tr><td>Ⅲ. 情報探索法指導に関するることについて</td></tr><tr><td>5. アクセスポイントと使い方</td></tr><tr><td>5. 2タイトル</td></tr><tr><td>5. 3キーワード</td></tr><tr><td>6. 検索ツールの存在と利用法（具体的な利用方法）</td></tr><tr><td>6. 1OPACの利用方法</td></tr><tr><td>6. 2データベースの利用法</td></tr></table>	項 目 名	Ⅰ. 図書館の印象づけについて	1. 図書館は生活・学習・研究上の基本的な資料・情報の収集・蓄積・提供機関であること	3. 図書館は種々のメディアを提供する期間であること	10. 図書館とそのサービスポイントの所在地について	10. 1本館の位置・所在地	10. 2分館（他校舎）の位置・所在地	Ⅱ. 図書館サービスの案内について	1. 自館の特徴	3. 検索ツールの配置と利用法（OPAC・CD-ROM・データベース検索の場所と簡単な案内）	4. 参考図書・ツールの存在と有用性	4. 1 2ネットワーク情報源（WEB上の情報）	4. 1 3電子ジャーナル	5. 利用規定	5. 1入館資格<卒業後も利用可能であること>	6. サービスの種類（存在をアピール）	6. 1貸出	6. 2返却	6. 3予約	6. 5相互貸借	6. 6学外文献複写	6. 7情報検索	6. 8レファレンスサービス	6. 9複写（コピー）サービス	10. 利用マナー（私語・携帯電話・飲食等の注意）	Ⅲ. 情報探索法指導に関するることについて	5. アクセスポイントと使い方	5. 2タイトル	5. 3キーワード	6. 検索ツールの存在と利用法（具体的な利用方法）	6. 1OPACの利用方法	6. 2データベースの利用法	<table><tr><th>項 目 名</th></tr><tr><td>Ⅰ. 図書館の印象づけについて</td></tr><tr><td>8. 図書館員による専門的サービス（：図書館員が専門的サービスを提供できること）</td></tr><tr><td>10. 利用マナー<著作権について；東京医科大学図書館独自の項目></td></tr><tr><td>Ⅲ. 情報探索法指導に関するることについて</td></tr><tr><td>4. 資料の基本タイプと利用法</td></tr><tr><td>4. 1 図書</td></tr><tr><td>4. 2 雑誌</td></tr><tr><td>4. 5 映像資料（ビデオ・DVDなど）</td></tr><tr><td>4. 6 音声資料（CD・カセットテープなど）</td></tr></table>	項 目 名	Ⅰ. 図書館の印象づけについて	8. 図書館員による専門的サービス（：図書館員が専門的サービスを提供できること）	10. 利用マナー<著作権について；東京医科大学図書館独自の項目>	Ⅲ. 情報探索法指導に関するることについて	4. 資料の基本タイプと利用法	4. 1 図書	4. 2 雑誌	4. 5 映像資料（ビデオ・DVDなど）	4. 6 音声資料（CD・カセットテープなど）
項 目 名																																											
Ⅰ. 図書館の印象づけについて																																											
1. 図書館は生活・学習・研究上の基本的な資料・情報の収集・蓄積・提供機関であること																																											
3. 図書館は種々のメディアを提供する期間であること																																											
10. 図書館とそのサービスポイントの所在地について																																											
10. 1本館の位置・所在地																																											
10. 2分館（他校舎）の位置・所在地																																											
Ⅱ. 図書館サービスの案内について																																											
1. 自館の特徴																																											
3. 検索ツールの配置と利用法（OPAC・CD-ROM・データベース検索の場所と簡単な案内）																																											
4. 参考図書・ツールの存在と有用性																																											
4. 1 2ネットワーク情報源（WEB上の情報）																																											
4. 1 3電子ジャーナル																																											
5. 利用規定																																											
5. 1入館資格<卒業後も利用可能であること>																																											
6. サービスの種類（存在をアピール）																																											
6. 1貸出																																											
6. 2返却																																											
6. 3予約																																											
6. 5相互貸借																																											
6. 6学外文献複写																																											
6. 7情報検索																																											
6. 8レファレンスサービス																																											
6. 9複写（コピー）サービス																																											
10. 利用マナー（私語・携帯電話・飲食等の注意）																																											
Ⅲ. 情報探索法指導に関するることについて																																											
5. アクセスポイントと使い方																																											
5. 2タイトル																																											
5. 3キーワード																																											
6. 検索ツールの存在と利用法（具体的な利用方法）																																											
6. 1OPACの利用方法																																											
6. 2データベースの利用法																																											
項 目 名																																											
Ⅰ. 図書館の印象づけについて																																											
8. 図書館員による専門的サービス（：図書館員が専門的サービスを提供できること）																																											
10. 利用マナー<著作権について；東京医科大学図書館独自の項目>																																											
Ⅲ. 情報探索法指導に関するることについて																																											
4. 資料の基本タイプと利用法																																											
4. 1 図書																																											
4. 2 雑誌																																											
4. 5 映像資料（ビデオ・DVDなど）																																											
4. 6 音声資料（CD・カセットテープなど）																																											
伝えたい事項																																											
	<table><tr><th>項 目 名</th></tr><tr><td>Ⅲ. 情報探索法指導に関するることについて</td></tr><tr><td>13. ブラウジングの効用</td></tr></table>	項 目 名	Ⅲ. 情報探索法指導に関するることについて	13. ブラウジングの効用																																							
項 目 名																																											
Ⅲ. 情報探索法指導に関するることについて																																											
13. ブラウジングの効用																																											

図 2－①. 東京医科大学図書館でのオリエンテーション項目

新入生オリエンテーションにおいて伝えるべき伝達項目																																																					
必須事項	重要事項																																																				
<table><tr><th>項 目 名</th></tr><tr><td>Ⅰ. 図書館の印象づけについて</td></tr><tr><td>1. 図書館は生活・学習・研究上の基本的な資料・情報の収集・蓄積・提供機関であること</td></tr><tr><td>10. 図書館とそのサービスポイントの所在地について</td></tr><tr><td>10. 1本館の位置・所在地</td></tr><tr><td>Ⅱ. 図書館サービスの案内について</td></tr><tr><td>1. 自館の特徴</td></tr><tr><td>2. 施設・設備の配置</td></tr><tr><td>2. 1入館の説明</td></tr><tr><td>2. 3館内フロア説明</td></tr><tr><td>2. 4視聴覚コーナーの説明</td></tr><tr><td>3. 検索ツールの配置と利用法（OPAC・CD-ROM・データベース検索の場所と簡単な案内）</td></tr><tr><td>4. 参考図書・ツールの存在と有用性</td></tr><tr><td>5. 利用規定</td></tr><tr><td>5. 2開館時間・開閉館日</td></tr><tr><td>6. サービスの種類（存在をアピール）</td></tr><tr><td>6. 1貸出</td></tr><tr><td>6. 2返却</td></tr><tr><td>6. 3予約</td></tr><tr><td>6. 7情報検索</td></tr><tr><td>6. 8レファレンスサービス</td></tr><tr><td>10. 利用マナー（私語・携帯電話・飲食等の注意）</td></tr><tr><td>Ⅲ. 情報探索法指導に関するることについて</td></tr><tr><td>6. 検索ツールの存在と利用法（具体的な利用方法）</td></tr><tr><td>6. 1OPACの利用方法</td></tr></table>	項 目 名	Ⅰ. 図書館の印象づけについて	1. 図書館は生活・学習・研究上の基本的な資料・情報の収集・蓄積・提供機関であること	10. 図書館とそのサービスポイントの所在地について	10. 1本館の位置・所在地	Ⅱ. 図書館サービスの案内について	1. 自館の特徴	2. 施設・設備の配置	2. 1入館の説明	2. 3館内フロア説明	2. 4視聴覚コーナーの説明	3. 検索ツールの配置と利用法（OPAC・CD-ROM・データベース検索の場所と簡単な案内）	4. 参考図書・ツールの存在と有用性	5. 利用規定	5. 2開館時間・開閉館日	6. サービスの種類（存在をアピール）	6. 1貸出	6. 2返却	6. 3予約	6. 7情報検索	6. 8レファレンスサービス	10. 利用マナー（私語・携帯電話・飲食等の注意）	Ⅲ. 情報探索法指導に関するることについて	6. 検索ツールの存在と利用法（具体的な利用方法）	6. 1OPACの利用方法	<table><tr><th>項 目 名</th></tr><tr><td>Ⅱ. 図書館サービスの案内について</td></tr><tr><td>5. 利用規定</td></tr><tr><td>6. 2データベースの利用法</td></tr><tr><td>5. 3書庫等の別置資料の利用</td></tr><tr><td>5. 4他大学図書館相互協定</td></tr><tr><td>6. サービスの種類（存在をアピール）</td></tr><tr><td>6. 4リクエスト</td></tr><tr><td>6. 5相互貸借</td></tr><tr><td>6. 6学外文献複写</td></tr><tr><td>6. 9複写（コピー）サービス</td></tr><tr><td>9. 図書館員による親切丁寧な案内・援助・協力を受けられること</td></tr><tr><td>11. 行事の案内</td></tr><tr><td>Ⅲ. 情報探索法指導に関するることについて</td></tr><tr><td>4. 資料の基本タイプと利用法</td></tr><tr><td>4. 1図書</td></tr><tr><td>4. 2雑誌</td></tr><tr><td>4. 3新聞</td></tr><tr><td>4. 5映像資料（ビデオ・DVDなど）</td></tr><tr><td>4. 6音声資料（CD・カセットテープなど）</td></tr><tr><td>5. アクセスポイントと使い方</td></tr><tr><td>5. 2タイトル</td></tr><tr><td>5. 3キーワード</td></tr><tr><td>10. 自館資料の組織法と利用法</td></tr><tr><td>10. 1 自館特有の分類番号・背ラベルの記号等の説明・利用法</td></tr><tr><td>10. 2 自館の資料番号の説明・利用法</td></tr><tr><td>12. 他機関資料の調査法と利用法</td></tr></table>	項 目 名	Ⅱ. 図書館サービスの案内について	5. 利用規定	6. 2データベースの利用法	5. 3書庫等の別置資料の利用	5. 4他大学図書館相互協定	6. サービスの種類（存在をアピール）	6. 4リクエスト	6. 5相互貸借	6. 6学外文献複写	6. 9複写（コピー）サービス	9. 図書館員による親切丁寧な案内・援助・協力を受けられること	11. 行事の案内	Ⅲ. 情報探索法指導に関するることについて	4. 資料の基本タイプと利用法	4. 1図書	4. 2雑誌	4. 3新聞	4. 5映像資料（ビデオ・DVDなど）	4. 6音声資料（CD・カセットテープなど）	5. アクセスポイントと使い方	5. 2タイトル	5. 3キーワード	10. 自館資料の組織法と利用法	10. 1 自館特有の分類番号・背ラベルの記号等の説明・利用法	10. 2 自館の資料番号の説明・利用法	12. 他機関資料の調査法と利用法
項 目 名																																																					
Ⅰ. 図書館の印象づけについて																																																					
1. 図書館は生活・学習・研究上の基本的な資料・情報の収集・蓄積・提供機関であること																																																					
10. 図書館とそのサービスポイントの所在地について																																																					
10. 1本館の位置・所在地																																																					
Ⅱ. 図書館サービスの案内について																																																					
1. 自館の特徴																																																					
2. 施設・設備の配置																																																					
2. 1入館の説明																																																					
2. 3館内フロア説明																																																					
2. 4視聴覚コーナーの説明																																																					
3. 検索ツールの配置と利用法（OPAC・CD-ROM・データベース検索の場所と簡単な案内）																																																					
4. 参考図書・ツールの存在と有用性																																																					
5. 利用規定																																																					
5. 2開館時間・開閉館日																																																					
6. サービスの種類（存在をアピール）																																																					
6. 1貸出																																																					
6. 2返却																																																					
6. 3予約																																																					
6. 7情報検索																																																					
6. 8レファレンスサービス																																																					
10. 利用マナー（私語・携帯電話・飲食等の注意）																																																					
Ⅲ. 情報探索法指導に関するることについて																																																					
6. 検索ツールの存在と利用法（具体的な利用方法）																																																					
6. 1OPACの利用方法																																																					
項 目 名																																																					
Ⅱ. 図書館サービスの案内について																																																					
5. 利用規定																																																					
6. 2データベースの利用法																																																					
5. 3書庫等の別置資料の利用																																																					
5. 4他大学図書館相互協定																																																					
6. サービスの種類（存在をアピール）																																																					
6. 4リクエスト																																																					
6. 5相互貸借																																																					
6. 6学外文献複写																																																					
6. 9複写（コピー）サービス																																																					
9. 図書館員による親切丁寧な案内・援助・協力を受けられること																																																					
11. 行事の案内																																																					
Ⅲ. 情報探索法指導に関するることについて																																																					
4. 資料の基本タイプと利用法																																																					
4. 1図書																																																					
4. 2雑誌																																																					
4. 3新聞																																																					
4. 5映像資料（ビデオ・DVDなど）																																																					
4. 6音声資料（CD・カセットテープなど）																																																					
5. アクセスポイントと使い方																																																					
5. 2タイトル																																																					
5. 3キーワード																																																					
10. 自館資料の組織法と利用法																																																					
10. 1 自館特有の分類番号・背ラベルの記号等の説明・利用法																																																					
10. 2 自館の資料番号の説明・利用法																																																					
12. 他機関資料の調査法と利用法																																																					
	伝えたい事項																																																				
	<table><tr><th>項 目 名</th></tr><tr><td>Ⅰ. 図書館の印象づけについて</td></tr><tr><td>3. 図書館は種々のメディアを提供する期間であること</td></tr><tr><td>10. 図書館とそのサービスポイントの所在地について</td></tr><tr><td>10. 2分館（他校舎）の位置・所在地</td></tr><tr><td>Ⅱ. 図書館サービスの案内について</td></tr><tr><td>2. 施設・設備の配置</td></tr><tr><td>2. 2退館の説明</td></tr><tr><td>5. 利用規定</td></tr><tr><td>5. 1入館資格</td></tr><tr><td>Ⅲ. 情報探索法指導に関するることについて</td></tr><tr><td>4. 資料の基本タイプと利用法</td></tr><tr><td>4. 7 CD-ROM</td></tr><tr><td>4. 1 1文庫・コレクション</td></tr><tr><td>5. アクセスポイントと使い方</td></tr><tr><td>5. 1著者名</td></tr><tr><td>5. 4分類記号</td></tr><tr><td>7. サーチエイドの存在と利用法</td></tr><tr><td>7. 1分類表（日本十進分類表など）</td></tr><tr><td>7. 4自館作成検索マニュアルへの言及・説明</td></tr></table>	項 目 名	Ⅰ. 図書館の印象づけについて	3. 図書館は種々のメディアを提供する期間であること	10. 図書館とそのサービスポイントの所在地について	10. 2分館（他校舎）の位置・所在地	Ⅱ. 図書館サービスの案内について	2. 施設・設備の配置	2. 2退館の説明	5. 利用規定	5. 1入館資格	Ⅲ. 情報探索法指導に関するることについて	4. 資料の基本タイプと利用法	4. 7 CD-ROM	4. 1 1文庫・コレクション	5. アクセスポイントと使い方	5. 1著者名	5. 4分類記号	7. サーチエイドの存在と利用法	7. 1分類表（日本十進分類表など）	7. 4自館作成検索マニュアルへの言及・説明																																
項 目 名																																																					
Ⅰ. 図書館の印象づけについて																																																					
3. 図書館は種々のメディアを提供する期間であること																																																					
10. 図書館とそのサービスポイントの所在地について																																																					
10. 2分館（他校舎）の位置・所在地																																																					
Ⅱ. 図書館サービスの案内について																																																					
2. 施設・設備の配置																																																					
2. 2退館の説明																																																					
5. 利用規定																																																					
5. 1入館資格																																																					
Ⅲ. 情報探索法指導に関するることについて																																																					
4. 資料の基本タイプと利用法																																																					
4. 7 CD-ROM																																																					
4. 1 1文庫・コレクション																																																					
5. アクセスポイントと使い方																																																					
5. 1著者名																																																					
5. 4分類記号																																																					
7. サーチエイドの存在と利用法																																																					
7. 1分類表（日本十進分類表など）																																																					
7. 4自館作成検索マニュアルへの言及・説明																																																					

図 2－②. リテラシー分科会会員校でのオリエンテーション項目

3) レポート作成上の情報源の種類と紹介

一般的にも言われていることであるが、最近はインターネット上での情報を有益とみなす学生が増えている。この風潮は学年が下がるごとに顕著になるため、図書で基本的な知識を身につけてからインターネットで検索する方法を強調したいと大学キャンパス（分館）の職員より指摘があった。

4) 図書の探し方と簡単な OPAC の使い方の説明

OPAC の画面を実際に見てもらい、検索方法や入力語の特殊性など簡単なきまりを知ってもらい、授業に役立ててもらいたい。

その他、資料をみつけた後どう利用するか（貸出の手続きやコピーの申込方法など）や図書館を利用するにあたってのきまり（飲食はもとより携帯電話などの通話禁止、基本的なマナーの再喚起）など、図書館を利用するにあたっての基本的な項目を何よりも分かりやすく、学生がすぐに使えることを念頭にまとめ、OPAC での検索を中心に身近な例を盛り込むこととした。

なお、リテラシー分科会作成のオリエンテーション計画書（図 3）を利用して構成を行い、説明文やスライド

を作成した。

時間は制限時間の15分を予定した。

以下は当館で作成した新入生オリエンテーションの構成である。

- ①図書館の説明（所在地の説明、各キャンパスにある分館の説明。医学部の図書館とはどのようなところか、どのような資料があるのか）
- ②身近な情報の探し方と各情報源の特徴について
 - ・本（単行書）
 - ・雑誌
 - ・インターネットなど Web 上の情報
- ③読みたい本や文献がどこにあるか（簡単な主題検索データベースの紹介と当館所蔵資料の検索）
- ④OPAC の説明
- ⑤OPAC の実演（パワーポイントによるスライドショーからリンクをたどり、Web 上の OPAC 画面から資料の検索→資料の配架場所の確認までを行う）
- ⑥OPAC で見つけた資料を利用するには（貸出の方法）
- ⑦OPAC で見つけた資料を利用するには（複写の方法と著作権について）
- ⑧図書館を使うにあたって（注意事項）

なお、①から④、⑥から⑧はパワーポイントによるスライドショーによる口頭説明、⑤はパワーポイントによるスライドショーと東京医科大学図書館 Web-OPAC を利用し検索を実演した。

IV. 考察

当館では、2004年度にはじめてコンピュータやスライドショーを使って具体的な「図書館の使い方」に踏み込んだオリエンテーションを行った。

今回は第1回目ということで、新入生オリエンテーションの説明に関して、学生たちの反応をアンケートなどで残すことはできなかった。

しかし、オリエンテーション実施日当日や、授業開始前から図書館へ行き雰囲気を見に来る、利用者カードの申込をする、また、オリエンテーションの2週間後にはじまったPBLの授業内で、資料を探す手段に図書館やOPACを積極的に利用する、その後の図書館内での新入生の利用態度や資料への興味など、昨年度とは異なった点があったと大学キャンパスの図書館職員から聞いている。

V. おわりに

今までは時間や場所など、様々な制約からこのような実践的なオリエンテーションを行う機会がなかった。

東京医科大学2004年度新入生オリエンテーション実施計画書			
主催	学務課		
担当者	不明		
持ち時間 (映像等)	不明		
(口頭説明)	パワーポイントによるスライドショー		
対象者	医学部入学の1年生		
実施状況	4月 7日/	医学部/	120人教室/参加者110人/ (図書館内or図書館外)
	月 日/	学科/	人教室/参加者 人/ (図書館内or図書館外)
	月 日/	学科/	人教室/参加者 人/ (図書館内or図書館外)
	月 日/	学科/	人教室/参加者 人/ (図書館内or図書館外)
目的	医学図書館とはどんなところかを知ってもらう		
目標	図書館の利用とマナーの向上		
設備			
機器	ノートPC		
昨年度からの 変更点	ウェブサイトに直接アクセス→パワーポイントによるスライドショーを予定		
留意点 (伝達項目)	1. どんなどきに図書館を使うのか(図書館の使い方)		
	2. 図書館利用におけるマナーについて (重要)		
留意点 (教授法)	1. ゆっくりと落ち着いた様子で、独りよがりにならないようにメリハリをつける		
留意点 (その他)			
期待できる成果	マナー向上を目指す		
その他			

図 3. オリエンテーション計画書

しかし今回オリエンテーションを実施してみて、実際に学生たちの反応を見てみると、利用者の望むものが見えてくると感じた。

しかしながらオリエンテーションの聞き手である学生の様子が事前に分からないことや、オリエンテーション後に行われた情報教育の講義に手伝いとして参加し、その様子を見て感じた学生個々の情報リテラシーの能力差やPBL授業終了後の学生の図書館での利用方法など、オリエンテーションの前後に調査しなくてはならない問題点なども多々あった。

また、最近問題化している、ネットワーク資源を対象とした著作権問題や、電子ジャーナルデータベースや文献検索データベースの使い方など、情報利用環境や利用者を取り巻く状況に合わせて触れたい内容もいくつかあった。

今回は新入生オリエンテーションの再設計ということで、対象を医学図書館になじみのない学生と設定してオリエンテーションを検討した。

しかし当館の利用者は学生ばかりでない。当館では図書館主体のオリエンテーションを行ってはいないが、今後、学生以外の利用者を対象とするオリエンテーションの実施も視野にいれるべきであろう。

このオリエンテーションの実施によって得られたことや反省を客観的に意識し、次年度のオリエンテーションへ繋げてゆきたいと思う。

謝辞

ご協力いただいた東京医科大学図書館の職員の皆様に御礼申し上げます。

参考文献

- 1) 大学セミナー・ハウス編. 大学力を創る:FDハンドブック. 東京:東信堂;1999.
- 2) 日本図書館協会図書館利用教育委員会編. 図書館利用教育ガイドライン:大学図書館版. 東京:日本図書館協会.2003.
- 3) 私立大学図書館協会東地区部会研究部情報リテラシー教育研究分科会研究報告書. 東京:私立大学図書館協会東地区部会.2004.
- 4) 矢崎省三. 今どきの利用者教育-東京農工大学附属図書館. 薬学図書館 1998;43(4):376-9.
- 5) 上岡真紀子. 大学1年生の情報リテラシー能力の分析:日吉メディアセンターの試み. 大学図書館研究 2003;69:42-52.
- 6) 倉橋英逸. 生涯教育における情報リテラシー教育と学習コミュニティ-米国の大学教育における実践とチュートリアル-. 大学図書館研究 2004;70:31-41.

Redesign of Orientation for New Students in Tokyo Medical University Library

Yuki NOZAKI

Tokyo Medical University Library, 6-7-1 Nishi-shinjuku, Shinjuku-ku, Tokyo 160-0023, Japan

Abstract: The orientation for new students using the Tokyo Medical University Library was redesigned in 2004. Previously, the Tokyo Medical University Library provided a simple lecture as an orientation for new students.

However, the curriculum of Tokyo Medical University was reconsidered in 2000-2001.

Thus, the orientation to Tokyo Medical University Library was also redesigned.

The redesign was performed using checklists devel-

oped by the research group attached to the Japan Association of Private University Libraries.

This report describes the results of the redesign and comments on the new orientation to Tokyo Medical University Library.

Key words: New Students' Orientation; User Education; User Investigation

(*Igaku Toshokan* 2005;52(2):152-156)